Make the Standards

ONO SOKKI

株式会社 小野測器

Corporate Profile

Message
代表メッセージ

絶えざる挑戦とお客様視点で、先進的かつ高付加価値の計測制御機器を提供します。

お客様と当社の技術

計測機器は「産業のマザーツール」と言われます。あらゆる分野の研究開発における根幹技術や、メーカーでの優れた商品の研究・開発を、高精度で信頼性を備えた計測機器が支えていると考えます。

当社は、各種動力の計測・制御・シミュレーションや解析技術、音響・振動の計測・コンサルティング、データ処理・解析ソフトウエアをはじめ、回転・速度、寸法・変位、トルク、燃料流量の各種測定など、計測制御機器とセンサ技術を組み合わせ、自動車業界をはじめ、機械・電機などさまざまな業界のお客様と長年にわたって信頼関係を築き今日に至っております。　当社は、幅広く研究・開発部門で利用されている製品を通して、当社の存在意義とその貢献が社会に認められていることを誇りとしております。

常に挑戦する気概を持つ

当社は1954年の創業から既に60年以上を過ぎております。創業時からの「誰もやらないことなら、挑戦する価値がある」の精神で、新しいことに取り組み、失敗を恐れず、愚直で真摯に「常に挑戦する気概」を持ち続ける企業風土をさらに発展させ、社員一人ひとりが果敢にチャレンジすることで、お客様のご要求に応えられるような企業体質を目指します。また、次の時代に繋がる先端技術の探求にはお客様との共同開発や、大学をはじめ広く公的な研究機関とも共同で事業に取り組める関係を大切にします。

社会のニーズに合う研究開発を継続し、高品質の製品を提供し、これからもお客様を始め多くのステークホルダーの方々から計測機器業界で必要な一流企業と評価され、信頼されることを目指したいと思います。

全社の活性化と販売のグローバル化

当社は社会に貢献するものづくりで、「今日より明日を更に良くする」という希望や夢を目標に、求心力を高め全社一丸となって、ものづくりに励みます。このために事業セグメント毎に、商品の企画から研究開発・設計・製造・メンテナンスまで責任を持たせ、コミュニケーションとスピード感を持って、現在および将来の各事業の展開や方向付けを中期的な計画によって進め、より高品質で高付加価値の

代表取締役社長
大越 祐史

小野測器の経営理念とビジョン

小野測器では、お客様により付加価値の高い製品・サービスを提供し、
社会の発展にさらに貢献できる企業となることを目指し、下記のビジョンを掲げています。

経営理念

産業のマザーツールで、
社会に貢献します。
「先義後利」で、
社会と共に歩みます。

ビジョン

お客様視点での
「ものづくり」にこだわります。

新しい価値を創造し、
ナンバーワンを目指します。

誰もやっていないことに
挑戦する人財を育成します。

製品をお客様に提供できるように柔軟な組織と運営を図り会社全体が活性化することを目指します。

事業セグメントとして計測機器分野では、音・振動分野や周辺センサを中心とし、自主企画のカタログ製品の開発設計から生産・メンテナンスに加え、音響棟などを活用した受託測定や各種計測のセミナーまでを、また特注試験装置分野では、お客さまからのご要求を満たすだけでなく、当社からのシステム提案が行えることを目指します。新たに増設した新実験棟で、開発・試験向けのエンジン・シャシ・ミッション等のリアルバーチャルシミュレーション、各種の制御・解析ソフトウエアの検証等を実際に動作させる体制により、研究開発・新商品開発・新規事業など体制が整いました。これらを総合的にまとめ全社の活性化を目指しています。

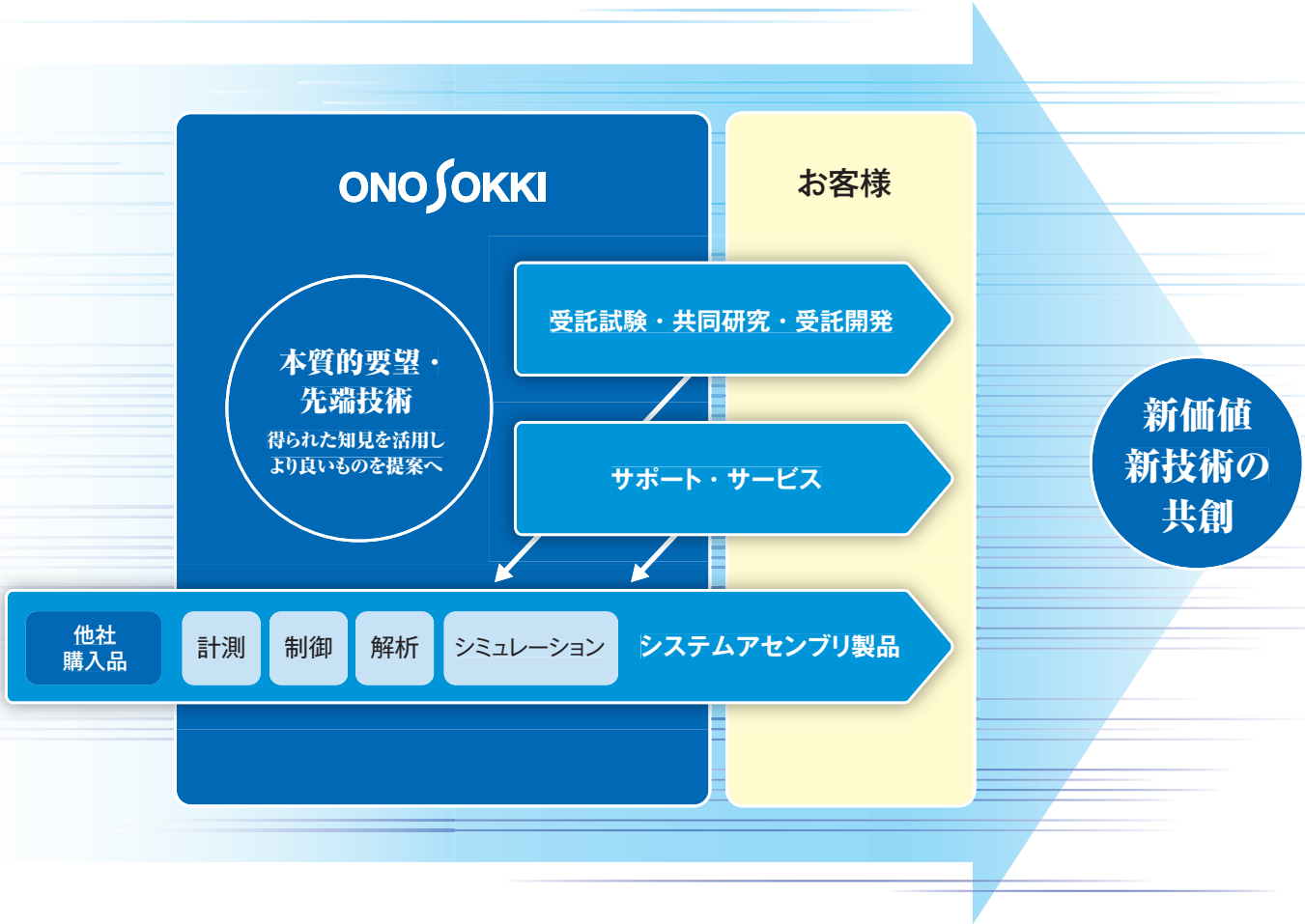
グローバル化につきましては、アメリカ、タイ、インド、中国に現地法人を展開。これまでのメンテナンス業務に加え、カタログ製品の販売網を整備、営業拠点の新設など活発な活動を開始しております。

最も大切な「お客様の視点」

当社の使命は、カタログ製品においてはお客様の視線でニーズを先取りした製品を、システム製品ではお客様のご要求に対してより高付加価値で高品質な製品を提案・提供し、ワンストップでお客様の問題解決のお役に立つことと考えています。私たちは日本のものづくりと産業を支える計測・制御・シミュレーション・解析技術の発展を担っているとの自覚のもと、これからも「お客様の視点」で考え、研究開発・商品開発・製造・販売・メンテナンスを行い、信頼される企業として社会の要請に応え、貢献して参ります。

自動車関連事業

自動車開発に携わるお客様の業務に深く入り込むことで、新しい価値と技術の共創を目指します。



近年、自動車パワートレイン開発は、電動化などによる種類の増加、燃費エミッション低減デバイス追加など制御の複雑化、新興国向けなど数の増加や燃料種の多様化に対応するため、量産開発の必要リソースが増大しています。OEM各社は外部委託やMBD（Model Based Development）による手戻り削減など、量産開発の必要リソース低減と新技術開発への再配分によってこれに対応しています。

一方、当社は新実験棟を建設し社内試験設備を増強し、受託事業の展開を開始致しました。自社製品を使用しお客様と同じ業務を行うことで、より多くの本質的なお客様視点を獲得し、そこで得た知識や経験を製品開発にフィードバックすることが可能となりました。そうしたプロセスから生まれた新商品によって、更にお客様の課題解決や効率改善を図る提案を積極的に行って参ります。

またMBDバーチャルテスト環境やデータ管理ツール、計測制御解析ツールや各種CAE（Computer Aided Engineering）ツールを統合したトータルソリューションの提供を目指し、ご購入後の充分なご活用やダウンタイム削減のためのサポートサービスも行っております。お客様業務に深く入り込み、お客様視点でのものづくりにこだわることで、ツールや設備を販売するだけのメーカーではなく、お客様と共に先端技術に取り組む“新技術共創メーカー”となることを目指しております。

オートモーティブ・テスティング・ラボラトリー（通称：ATラボ）

自動車技術の進歩に合わせ、ハイブリッドカーや電気自動車をはじめとした多様化する車両に対応した最新の計測・制御技術の開発検証を目指した実験棟で、横浜テクニカルセンターと宇都宮テクニカル&プロダクトセンターの二拠点に完備しています。エンジンベンチ、ドライブトレイン試験設備、シャシーダイナモを備えており、エンジンや駆動系単体から実車状態での評価まで行える環境を実現しているのが特長です。お客様が日常行っている試験のほぼ全てはここで再現することができます。依頼による試験はもちろん、共同研究・共同開発の取り組みを通じてお客様の先進的なモノづくりを支えるとともに、この取り組みによってもたらされる新たな技術的知見の習得や、従来からの計測制御技術により一層磨きをかけて参ります。

自動車性能計測機器

環境保護のための排ガス対策、燃料消費のさらなる低減、安全性の向上等と自動車技術は進歩し続けており、自動車の試験環境も高度で複雑化しています。小野測器は半世紀にわたり、自動車関係の計測器と試験システムを開発、製作し、自動車技術の発展と共に歩んできました。蓄積された技術とノウハウを結集し、高度で複雑な試験に、柔軟に対応できる試験システムを提供しています。

自動計測・制御システム (FAMS-R5)

新たなEV/HEV試験に対応できるシミュレーション技術から、日々厳しくなる法規に対応した試験、性能・耐久試験など幅広い試験に対応しています。お客様の開発時間の短縮を図れるよう、ECUマップ最適化から適合運転まで行うORANGEシリーズとのリンク機能を持っています。

実車トランジェント試験装置 (RealCar-Simulation Bench)

シャシーダイナモでは実現できないスリップなどの挙動が再現できるシステムです。実車のホイールをタイヤ型軸受に換装することにより、濡れた路面、雪道などの低μ路面を再現できます。幅広い車両に対応し、ブレーキ試験、車両の官能評価などの試験を行うことができます。

無線温度計測システム WC-1000／WT-1000シリーズ

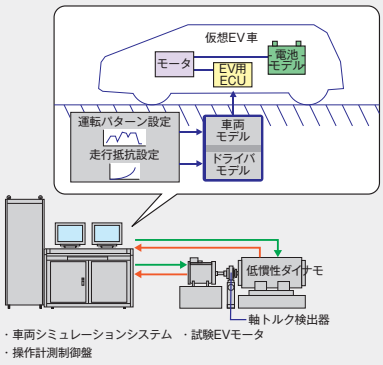
当社の無線温度計測システムは、業界最小クラスの無線温度計測モジュールを使用しており、設置が困難な場所でも短時間でセッティングでき、計測環境を阻害しない温度計測が可能です。最大200チャンネルの同時計測が可能で、温度分布の計測に最適です。

高分解能・高応答な新型容積式流量検出器 FPシリーズ

高度化、多様化する流量計測への要求に応え、高分解能・高応答な計測が可能で、化石燃料では不要だった耐腐食性能が求められるアルコール混合燃料にも対応した新型流量検出器 FPシリーズを開発しました。当社の燃料流量計測システムが、次世代エンジンのエネルギ効率向上に貢献します。

EV/HEV向け アプリケーション

世界的に環境意識が高まる中、「エコカー」に熱い視線が集まり、開発・普及のペースは今後、加速度的に増していくと予想されます。小野測器ではEV/HEVの開発及び普及のために有用な計測アプリケーションを提供しています。



たとえば、小野測器では従来より計測・制御技術を応用した自動車用試験機を開発・製造していますが、これをEV/HEV用モータ性能測定に応用しています。車両ができる前のモータだけの状態で車両情報をコンピュータに入力（図中:仮想EV車）し、シミュレーション技術（図中:車両モデル、ドライバモデル、電池モデル）も組み合わせることにより、あたかも路上を走行しているかのような状態（図中:運転パターン設定、走行抵抗設定）をつくり、実運転時のモータの性能を測ります。完成車を試作する前に性能を把握することで、お客様の車両開発シーンにおいて、開発期間の短縮化、開発の効率化、車両の高品質化の実現に寄与しています。

音響・振動分野のエキスパートとして、ワンストップソリューションをご提供します。

ONE STOP SOLUTION

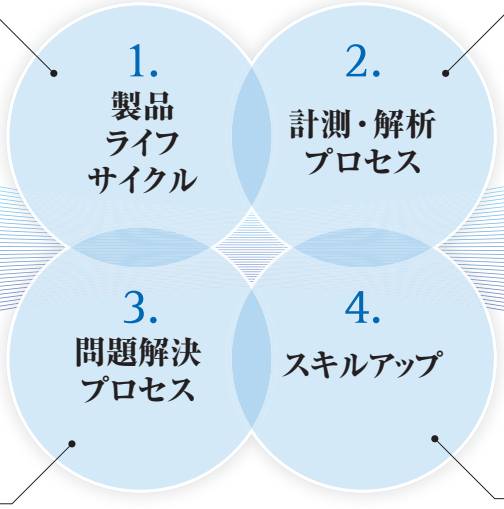
お客様が抱えている音･振動に関わる問題解決のために、
様々なプロセスで必要な情報、製品、サービス、
ソリューションをご提供し、トータルサポート致します。

お客様が導入される
製品のライフサイクルでの
サポート

①導入→②稼働→③保守→④更新

お客様の目的に合わせて、
最適な計測・解析プロセスと
製品をご提案

①センシング→②データ収集→
③解析→④レポート



お客様と
問題解決プロセスを共有

①現状把握→②問題の特定→
③解決策（仮説）の案出・実施→
④仮説検証→⑤効果確認

お客様のスキルアップを
後方支援

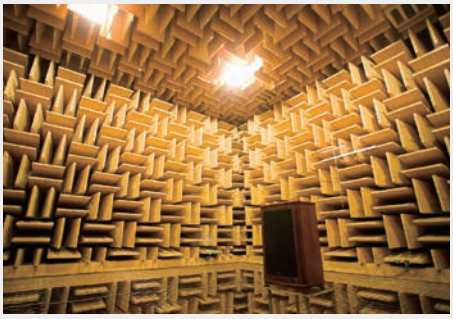
①音・振動技術ビギナー→
②アドバンストエンジニア

経験（問題解決プロセスの共有）と
学習（セミナー・Web 技術情報）の
機会を創出しお客様のスキルアップを支援

工業製品の音･振動の問題が変容してきています。依然として騒音･振動の低減は、製品の品質･性能面から重要な要件として求められておりますが、音を小さくすることで問題が解決しないケースが増えています。全体的に低騒音、低振動の製品が当たり前の品質となると、小さくても気になる音や、低減前にはマスクされていた別の音が知覚されることで、品質改善につながらないばかりか、新たな問題を引き起こす場合があります。

一方で、量的な低減から質的な改善へ向かうことで、製品の差別化に寄与し、心地よい音で製品の価値を向上するといった積極的な音創りのニーズが顕在化してきております。当社は、騒音･振動の低減、音質の改善の両面のアプローチでコンサルティングを実施できる経験豊かで、先端的な技術に精通したスペシャリストを擁しています。複雑で高度化した音と振動の問題を俯瞰統合的に捉え、お客様の問題解決と価値創造を長期的にサポート致します。

音響棟



世界最高レベルの無響室･半無響室･残響室(音振･受音)を設備し、最先端の音響･振動試験、研究の場を整えています。棟全体の外箱に防振ゴムを敷き、その上に各実験室の内箱を浮かせた大きな二重構造になっており、建物外部からの騒音の侵入や、地面の振動で発生する固体伝播音を遮断します。メーカ各社や官公庁から委託された音･振動に関わる研究も行っており、各施設は外部機関への貸し出しにも対応しています。

音響・振動関連装置

各種音響･振動センサを始め、取得したデータの解析機器から2次処理ソフトにいたるまで豊富な計測機器を取り揃え、
お客様に最適な計測･解析のトータルシステムをご提供しております。
また、音響･振動データの取得から解析までのコンサルティングに関しても承っております。

音響振動解析システム O-Solution・DS-5000

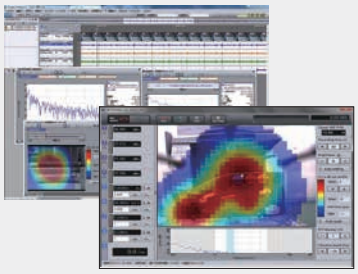
O-Solutionは、リアルタイムでの「計測」と、詳細確認できる「解析」をシームレスに操作ができ、定常的な現象から突発的な過渡現象まで捉えられるソフトウェアです。DS-5000は実験室での研究･開発から、フィールド計測による検証まで対応できるハードウェアです。1台で最大48ch、合計5台まで接続でき、最大240chの多チャンネル計測を可能にします。

高機能騒音計 LA-7000シリーズ

LA-7000シリーズ高機能騒音計は、本来の騒音レベルの測定や演算を行うこと以外に、測定中に「音を聞きながら計測する」ということにこだわりました。音を聞くことで、対象物の状態を確認したり、確実に録音できたかを確認できます。さらに録音機能、1/3リアルタイムオクターブ分析や、FFT分析の拡張機能も用意しています。

音源可視化ソフトウェア BF-3200

リアルタイムに音源位置を可視化するソフトウェアです。4本のマイクに到達する音と位相差情報から、音の発生位置をカラーマップで表示します。カメラの映像と重ねることで、音源を直感的に捉えられます。振動波形や、対象物の回転速度を確認しながらの探査も可能で、オフライン解析ソフトウェアと合わせて使うことで、過渡音･突発音も精度よく音源探査を行うことができます。



FFTコンパレータ CF-4700

製品の音や振動による精密な品質検査に最適なライン判定機です。当社が長年培ってきたFFTによる周波数解析技術を搭載することで、問題となる特徴的な周波数成分を抽出し、良否判定を行います。

Products of ONO SOKKI

計測器・センサ

回転・速度計測器、寸法・変位測定器、トルク計測器など、高精度な測定を可能にするさまざまな計測機器を取り揃えています。

ディジタルエンジン回転計 CT-6700

CT-6700ディジタルエンジン回転計は、ガソリン／ディーゼルエンジン車・ハイブリット車・電気自動車などの回転速度計測に利用されています。小型筐体の為、実車両での計測にも有効です。新たにECU用クランク角度信号からの検出も可能になり、これまで信号検出が難しかったエンジンの回転速度計測にも対応しています。

レーザ面内速度計 LV-7000シリーズ

LV-7000シリーズは移動物体、回転体の速度や速度ムラ、移動距離・長さを非接触で検出する高感度・高応答のレーザ面内速度計です。レーザ安全クラス2に適合し、レーザ保護メガネの着用、レーザ管理区域等の規制・管理者が不要で計測に制約を生じません。LV-7000シリーズ レーザ面内速度計を使用することで回転体の挙動計測、素材の加工や品質の向上、ロス材の削減等に活用いただけます。

小型高剛性トルク検出器 RHシリーズ

小型高剛性トルク検出器RHシリーズは、剛性を高め、より高速回転に対応した仕様とすることで、高品質なモータの開発に貢献します。今後、RHシリーズのラインアップを増やすことで「はかる」を更に広げていきます。

Facilities of ONO SOKKI

品質を支える設備

宇都宮テクニカル&プロダクトセンターでは、精密かつ信頼性の高い製造技術を確立し、自社設備による生産を行っています。近年は設計分野にも技術フィールドを拡大し、すでに自動車関連の試験システムや計測機器で設計からの一貫生産体制を構築。また、各種計測機器の設計業務の充実も図っています。

宇都宮テクニカル&プロダクトセンター

精密加工室

室温・湿度の管理された中で流量計やトルク計の製品をマシニングセンタ・NC自動旋盤で加工し、精度を追及しています。

基板実装フロア

多品種少量生産とジャスト・イン・タイムでの製品供給を実現するため、基板実装も内製化しています。

クリーンルーム

マイクロホン等高い精度が要求される製品の組み立て・調整は、クリーンルーム内で作業が行われています。

生産フロア

作業支援カメラの導入により、画像認識による組み立て支援と自動チェックを展開し、多品種少量生産に対応したセル生産方式を採用しています。

精密計測室

高信頼性の製品作りのための、質量基準器などの各種基準器・3次元測定機を備え、室温・湿度は常に一定に調整されています。

Facilities of ONO SOKKI

優れた品質を追究するために

お客様に提供する全ての「ものづくり」の過程で、
安心・安全の品質が創りこまれた商品を提供します。

JCSS校正サービス

計測器で測定された値を保証するためには、計測器を適切な周期で校正する必要があります。校正された計測器を使用することではじめて、得られた測定値の信頼性・安定性を高めることができます。

小野測器は、長年に亘る計測機器メーカとしての経験とノウハウを活かし、ISO/IEC 17025の要求事項に適合した国際MRA対応JCSS校正事業者の認定を幅広い分野で展開し、信頼性の高い、高度な校正サービスを提供しています。

現在、認定されている「音響・超音波」、「振動加速度」、「トルク」、「流量・流速」、「電気（直流・低周波）」、「速さ」、「時間・周波数及び回転速度」の7区分では、国際的に有効な校正証明書を提供することができます。

株式会社小野測器品質保証ブロック品質管理グループは国際MRA対応JCSS認定事業者です。JCSS 0170は当品質保証ブロック品質管理グループの認定番号です。

小野測器のトルク校正

トルクは、回転力とも言われ回転機器の性能を表す項目で様々な分野において重要な役割をはたしています。精度を保証するには、トルク検出器の校正が重要となります。

JCSS校正

小野測器は、定格が1 N·m ～ 5000 N·m までのトルク計を校正できる、国内トップクラスのJCSS登録事業者です。

重力補正

重力による測定誤差を解消するために校正装置の設置場所の重力を計測し、補正しています。

小野測器は校正事業者として登録していますので当社のトルク検出器だけでなく、他社製トルク検出器のJCSSトルク校正も実施します。小野測器は、JCSS校正サービスを通じてこれからも安心品質を提供します。

小型高剛性トルク検出器
RHシリーズ

フランジ型高剛性トルク検出器
TQシリーズ

トルク校正器

History of ONO SOKKI

沿革

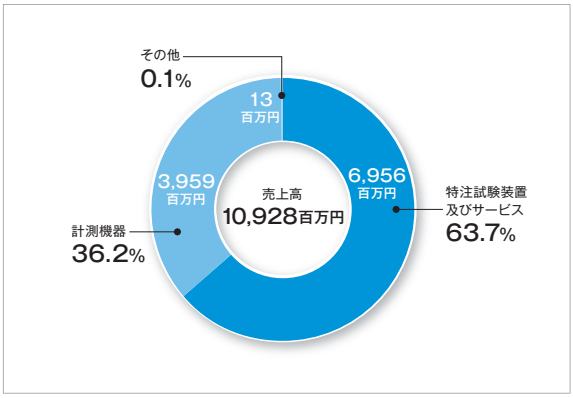
年月		沿革
1954年	1月	有限会社小野測器製作所を設立。
1957年	10月	株式会社小野測器製作所（本店:東京都品川区）に組織変更。
1963年	1月	宇都宮工場（現 宇都宮テクニカル&プロダクトセンター）を新設。
1975年	8月	東京都大田区矢口に本店を移転。
1980年	4月	株式会社小野測器に商号変更。
1983年	4月	東京都新宿区に本店を移転。
	8月	東京証券取引所市場第二部に上場。
1986年	6月	東京証券取引所市場第一部へ指定替。
	10月	米国イリノイ州に現地法人オノソッキ テクノロジーインク(現･連結子会社)を設立。
1990年	1月	横浜市にテクニカルセンター本棟を新設し、技術センターおよび東京事業所を全面移転。
	4月	オノ　エンタープライズ株式会社(現･連結子会社)を設立。
	5月	テクニカルセンター内に無響室、半無響室、残響室および計測室から構成されるアコースティックスラボを新設。
1992年	11月	中国に北京駐在員事務所(現･上海小野測器測量技術有限公司分公司)を開設。
1993年	7月	株式会社小野測器宇都宮を設立。
1994年	1月	小野測器カスタマーサービス株式会社を設立。
	4月	神奈川県横浜市に本店を移転。
2004年	10月	テクニカルセンター内にエンジン試験室および組立･調整エリアから構成されるオートモーティブテスティングラボを新設。
2005年	7月	宇都宮センター敷地内にエンジン試験室および組立･調整エリアから構成されるオートモーティブテスティングラボを新設。
2006年	6月	タイ王国ノンタブリ県に現地法人オノソッキ(タイランド)(現･連結子会社)を設立。
2009年	2月	神奈川県横浜市港北区新横浜に本社･ソフトウェア開発センターを新設。
2012年	1月	株式会社小野測器宇都宮を存続会社、小野測器カスタマーサービス株式会社を消滅会社とする吸収合併。
	5月	インド共和国ハリヤナ州グルガオンにオノソッキインディア(現･連結子会社)を設立。
	8月	中華人民共和国上海市に上海小野測器測量技術有限公司(現･連結子会社)を設立。
2015年	3月	宇都宮テクニカル&プロダクトセンター敷地内にエンジン試験室および組立･調整エリアから構成される オートモーティブテスティングラボU2を新設。
	4月	株式会社小野測器宇都宮を吸収合併。
2018年	4月	小野測器ソフトウェア株式会社を設立。
2022年	4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からスタンダード市場に移行。
	8月	株式会社Sound One（現･連結子会社）を設立。
2023年	5月	小野測器ソフトウェア株式会社を吸収合併。

財務ハイライト(連結)

（単位:百万円）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
売上高	14,440	13,034	11,841	9,852	10,928
営業利益	962	454	△566	△859	55
経常利益	1,032	499	△523	△685	211
当期純利益	692	357	△576	△1,271	246
1株当たり当期純利益（円）	61.57	32.03	△51.43	△114.67	23.82
総資産	20,980	22,043	20,807	19,466	21,109
純資産	14,749	15,104	14,211	12,720	13,386
1株当たり純資産額（円）	1,308.01	1,333.93	1,249.35	1,206.19	1,262.78
自己資本比率（%）	69.6	67.6	67.3	64.1	62.0

2022年セグメント別売上高比率(連結)



Outline of ONO SOKKI

会社概要

会社概要

社名	株式会社　小野測器
本店（本社）	神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目9番3号
代表者	代表取締役社長　大越　祐史
設立	1954年1月20日
資本金	71億3420万円
従業員数	577名（連結:2023年3月31日現在）
上場	東証スタンダード市場

役員および執行役員（2023年4月1日現在）

■ 取締役

代表取締役社長	大越　祐史
取締役	猪瀬　潤
取締役	濵田　仁
取締役	葛西　功
社外取締役	飯田　訓正
社外取締役	木村　岩雄

■ 監査役

常勤監査役（社外監査役）	金子　孝雄
社外監査役	庄山　俊彦
社外監査役	藤　康範

■ 執行役員

常務執行役員	猪瀬　潤
常務執行役員	濵田　仁
上席執行役員	葛西　功
特命執行役員	奥平　裕通
執行役員	瀧澤　直樹
執行役員	安地　隆浩
執行役員	前山　剛輝
執行役員	塚越　照
執行役員	岩谷　有之
執行役員	駒場　健一
執行役員	小池　秀昭
執行役員	日高　英俊
執行役員	飯塚　啓之

事業所

本社･ソフトウェア開発センター

〒222-8507
神奈川県横浜市港北区
新横浜3丁目9番3号
TEL:（045）935-3888
FAX:（045）470-7242

横浜テクニカルセンター

〒226-8507
神奈川県横浜市緑区
白山1丁目16番1号
TEL:（045）935-3839
FAX:（045）935-3881

宇都宮テクニカル&プロダクトセンター

〒321-0155
栃木県宇都宮市西川田南
2丁目4番13号
TEL:（028）658-3111
FAX:（028）684-1222

営業拠点

北関東営業所
〒321-0155
栃木県宇都宮市西川田南2丁目4番13号
宇都宮テクニカル&プロダクトセンター内
TEL:(028)684-2400
FAX:(028)684-2401

埼玉営業所
〒351-0022
埼玉県朝霞市東弁財1丁目3番9号
イーストアレイ 4A
TEL:(048)474-8311
FAX:(048)470-1146

首都圏営業所
〒226-8507
神奈川県横浜市緑区白山1丁目16番1
横浜テクニカルセンター内
TEL:(045)935-3838
FAX:(045)930-1304

沼津営業所
〒411-0932
静岡県駿東郡長泉町南一色404−1
サンヴュー南一色
TEL:(055)988-3738
FAX:(055)980-0553

浜松営業所
〒435-0057
静岡県浜松市東区中田町149番地 K−MIC
TEL:(053)462-5611
FAX:(053)468-0027

中部営業所
〒471-0034
愛知県豊田市小坂本町1丁目13−11
富士火災豊田ビル 2F
TEL:(0565)41-3551
FAX:(0565)41-3550

関西営業所
〒564-0063
大阪府吹田市江坂町2丁目1番43号
KYUHO江坂ビル8F
TEL:(06)6386-3141
FAX:(06)6368-2153

広島営業所
〒730-0051
広島県広島市中区
大手町2丁目11番2号
グランドビル大手町12F
TEL:(082)246-1777
FAX:(082)504-3785

九州営業所
〒812-0007
福岡県福岡市博多区
東比恵2丁目20番25号東比恵ビル8F
TEL:(092)432-2335
FAX:(092)432-2337

海外営業グループ
〒222-8507
神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目9番3号
本社･ソフトウェア開発センター内
TEL:(045)476-9725
FAX:(045)476-9726

関連会社

【国内】

オノエンタープライズ（株）
〒226-8507
神奈川県横浜市緑区白山1丁目16番1号 横浜テクニカルセンター内
TEL:(045)935-3921　FAX:(045)935-3881

（株）Sound One
〒222-8507
神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目9番3号 本社･ソフトウェア開発センター内
https://sound-one.net/

【海外】

Ono Sokki Technology Inc. (U.S.A)
2171 Executive Drive, Suite 400, Addison, IL 60101, U.S.A.
PHONE: +1-630-627-9700　FAX: +1-630-627-0004
URL: http://www.onosokki.net/

Ono Sokki (Thailand) Co., Ltd. (Thailand)
1/293-4 Moo.9 T.Bangphud A.Pakkred Nonthaburi 11120, Thailand
PHONE: (+66)2-584-6735　FAX: (+66)2-584-6740

Ono Sokki India Pvt. Ltd. (India)
Plot No.20, Ground Floor, Sector-3, IMT Manesar
Gurgaon - 122050, Haryana, INDIA
PHONE: (+91)124-421-1807 FAX: (+91)124-421-1809

Ono Sokki Shanghai Technology Co., Ltd. (China)
Room 506, No.47 Zhengyi Road, Yangpu District, Shanghai, 200433, P.R.C.
PHONE: (+86)21-6503-2656 FAX: (+86)21-6506-0327

ONO SOKKI

株式会社 小野測器